

Heart of Tajimi
— たじみ市民討議会 2025 —

実施報告書



2026 年 3 月

たじみ市民討議会 実行委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 「たじみ市民討議会 2025」について	1
2 - 1. 概要	2
2 - 2. 協定書締結	2
2 - 3. 運営組織	2
2 - 4. 実行委員会	2
2 - 5. 活動実績	2
3. 討議会の実施について	3
3 - 1. テーマ選定について	5
3 - 2. 参加者について	7
3 - 3. 謝礼について	7
3 - 4. 討議の方法	7
3 - 5. 情報提供について	7
3 - 6. 話し合いのルール	7
4. 討議会の結果と市民からの提言【提言書】	9
5. 『たじみ市民討議会 2025』の検証	11
6. 『たじみ市民討議会』の今後の取り組み	11
6 - 1. 参加者の減少	11
6 - 2. 今後の継続性について	11
6 - 3. 事後のフォロー	11
7. 協賛者ご挨拶	12
8. 終わりに	13
資料 1. 話し合いシート	14～33
資料 2. 参加者アンケート	34～38

1. はじめに

本報告書は「たじみ市民討議会実行委員会」が多治見市と協定を締結し、(一社)多治見青年会議所の協力を得て実施した「Heart of Tajimiーたじみ市民討議会 2025ー」について、報告するものである。

2025年の「たじみ市民討議会」は7月27日に多治見市民32人の参加を得て実施された。

基本コンセプト『住みやすいまち たじみ』を掲げ、【多治見の魅力を効果的にSNS発信するためにはどうすればいいのか】をゴールとして、

大テーマ『住みやすいまち たじみ』

中テーマ『災害発生！集まりたくなる避難所をみんなで考えよう』

討議テーマ1 避難所ってどんな所？体験してみよう

討議テーマ2 だれでも安心して行くことができる避難所はどんなところ？

討議テーマ3 避難所生活であなたの支えになるモノはなんですか？

そしてあなたはどんなことなら手伝えますか？

討議テーマ4 どんなイベント・セミナーがあったら参加したいですか？

この4つのテーマについて話し合いを行って頂いた。さらにその結果を検証し、集計・分析をして多治見市に対して提言を行った。



「たじみ市民討議会 2025」実行委員会

2. 「たじみ市民討議会 2025」について

2-1 概要

『たじみ市民討議会』はドイツで提唱された『プラーヌンクスツェレ』を参考に、2009年に（一社）多治見青年会議所が、「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2009ー」と題して、第1回『たじみ市民討議会』を企画立案し、以後2012年に市民による実行委員会を立ち上げ、本年に至る。

『たじみ市民討議会』は広く市民の「声なき声」を集約すべく18歳以上の多治見市民を対象に、住民基本台帳を基に無作為抽出された3,000人に対して参加依頼書を送付し、参加を受諾された市民により、年ごとに設定したテーマに沿って話し合いを行って頂く。そこで出た意見を集約・合意形成した結果を市政に提言を行う市民活動である。

2-2 協定書締結

『たじみ市民討議会』を実施するにあたり、実行委員会と多治見市との間で『協定書』を締結した。協定の内容は、①実施の目的、②相互の協働の精神に基づく原則、③役割と責務などを明確にし、確認するものである。



協定書締結式の様子

2-3 運営組織

実行委員会は市民委員10人で次のように組織した。

- ・ 実行委員会委員長（1人）、副委員長（2人）、顧問（1人）で運営し、会を代表する。
- ・ 運営にあたって必要に応じて運営委員（若干名）を招集して運営方法を協議した。
- ・ オブザーバーとして多治見市企画部秘書広報課の職員にも参加して頂いた。

2-4 実行委員会

実行委員会は、都度議事テーマを決め、1～2回／月の頻度で開催した。

活動の記録は、次項2-5『活動実績』に記す。

2-5 今年度の活動実績

今年度も開催日数1日とし、実行委員会の負担軽減を考え、委員会も会議だけではなく、ZOOMやLINEなどを利用して開催している。実行委員長、副委員長での運営委員会は、必要時に開催。

テーマの選定、コマ数、討議方法を前年度を参考にしながらも、よりよい内容にするために会議を続けた。その結果、実際の討議に加え、体験できる時間を追加してよりテーマ内容を身近に感じてもらえるようになった。

第 1 回 顔合わせ

第 2 回 活動方針について

第 3 回 討議テーマについて（ 3 月）

第 4 回 討議小テーマ 4 つの決定（ 4 月）

第 5 回 討議方法の再決定（ 5 月）

第 6 回 案内状封筒詰め作業

『協定書』調印（ 5 月 16 日）

第 7 回 情報提供について（情報提供者の選定）

第 8 回 情報提供について（情報提供の内容の検討）

第 9 回 情報提供について（情報提供の内容の修正）

会場設営（ 7 月 26 日）

『たじみ市民討議会』開催（ 7 月 27 日）

第 10 回 提言書の策定

第 11 回 提言書の策定

第 12 回 提言書の策定

第 13 回 提言書の策定・議決

『中間報告会』（ 9 月 22 日）

『提言書』提出（10 月 3 日）

3. 討議会の実施について

『たじみ市民討議会』は以下の要領で実施した。

討議会は 4～6 人の単位で 6 グループを作り、4 テーマについて参加者同士で意見交換をする。また、2 テーマが終わったらメンバーの入れ替えを行う。

3-1 テーマ選定について

テーマ選定にあたっては、市民の共通の関心事で市政との協働が可能なものとすることを意識して議論を重ねた。また、市民としてやるべきこと、できる事が明確にイメージでき、市政に対しては具体的な提言ができる事を念頭に置いている。

市民討議会は、コンセプトとして『住みやすいまち たじみ』と大きなテーマを掲げている。

2025 年のテーマは、「避難所」である。昨今、地震だけでなく、山火事や道路陥没など予期せず事態により避難生活を必要とすることが増えていた。そのため、避難生活とはどんなものなのかという興味から始まり、短期から長期スパンまで考える必要がある重要な課題ではないかと気づきテーマに選定した。また、避難生活は実際に体験しないと理解も難しいのではないかと考え、【体験】してもらうことで、より自分事として討議してもらえるようにダンボールベッドや簡易トイレや非常食なども見てもらうようにした。

まず、なぜ避難所なのか？

ニュースで地震や山火事、大雨による避難も話を聞く。避難所の映像を見ても、どこか他人事。避難所は大事！分かってはいる。でも本当に自分が使うかと思っている人はいるだろうか？多分いない。

それが普通です。重要って知っている。でも他人事。だからこそ冷静に考えることができるかもしれない。何もない今だからこそ余裕をもって考えることができるかもしれない。今、必要ないけれど、必要になるかもしれない重要なこと。そんなことを想いながら、このテーマをみんなで選びました。

テーマ①②

避難所ってどんなイメージでした？

お泊り会と何が違いますか？もし、避難所がお泊り会みたいな楽しい雰囲気だったら？

ニュースで見る限り避難は無事に終了して安心な感じはする。でも避難者は未来に不安を抱えている。確かに人が亡くなったり、家が壊れたりとした中で楽しさを求めるのは不謹慎かもしれないです。でも、生きているあなたは明日も生きていかなくてはいけない。忍ぶ時間も必要だし、辛さを我慢する必要もありません。

もし、未来の不安をなくすために、今のあなたができることあるのであれば、準備をし、必要な事を考えておくこと。どんな避難所だったら未来のあなたは少しでも笑顔で安心して眠れるかを考えてほしい。

テーマ③

写真洗浄ボランティアが、いつも話題になりますよね。なぜでしょう？

水と食事があれば、生命はつなぐことができます。では心をつなぐものは何でしょうか？

被災の後に、強く生きていくためには水と食事だけがあればよいのでしょうか？

命をつなぐために、避難グッズ、非常食を用意しますよね。本当にそれだけでよいのでしょうか？

避難所にあなた独りかもしれません。心細いですよね。現実から逃げたいかもしれません。

暗闇、騒音、臭い…避難所の感想を聞いて何を思いましたか？

その辛い現実から逃げてもよいのです。自分の大事な世界を守るためには、何が必要なのでしょう？

自分の大切なモノ、心が強くなれるモノを今一度考え、避難グッズのリストに加えてみませんか。そして、大事なものを共有することで他の人にも気づきを与えられないか？

テーマ④

イベントの参加、セミナー、行く必要があるのか？でもとても大切な事。

命があるからこそ、大変な毎日を進まなくてはいけません。

だからこそ、学びたい。そして、余裕があれば楽しく学べる。

どんなことを、どんな風に勉強したいか？何を知りたいか？誰に何を伝えたいか？

自分が伝えることができるかもしれない。

自分が講習できることがあるかもしれない。みんなの笑顔を守るために一緒に考えたい。

このような想いでテーマを考えました。

3-2 参加者について

参加者は多治見市で管理される『住民基本台帳』から 18 歳以上の市民を無作為に抽出して 3,000 人に『参加依頼書』を郵送した。今回より、返答を今までの郵送に加えて、ネットでの回答可能とした。当日の欠席も考え 40 名に決定通知を返送した。当日までに欠席連絡もあり、38 名が参加予定であったが、当日の参加者は 32 人であった。

3-3 謝礼について

参加者に対しては、全ての討議に参加を条件に 4,000 円の『謝礼』をした。単に『謝礼』と言うだけでなく、各自の発言には責任を持って頂く意味合いがあり事前説明で確認をした。

また、お弁当とお茶もこちらで用意した。

3-4 討議の方法

討議は次のように行った。

[グループ討議]

話し合いは、実行委員が補助係（1 人／グループ）としてサポート。進行係は参加者が行い自由な話し合いを行った。それぞれの意見は付箋に記載して、準備した模造紙に貼り付けた。

[まとめ]

話し合いの結果は「まとめ 1」「まとめ 2」「まとめ 3」として模造紙に記入して合意形成をする。「残したい意見」があれば併記する。

[発表]

まとめた意見の内容をグループごとに発表を行う。全てのグループの模造紙を一覧として張り出す。

[投票]

各グループでまとめた全グループの意見は、参加者全員が各々賛同する「まとめ」、「残したい意見」に投票する。

3-5 情報提供について

グループ討議に先立ち専門家、先進活動グループなどによる『情報提供』を行う。

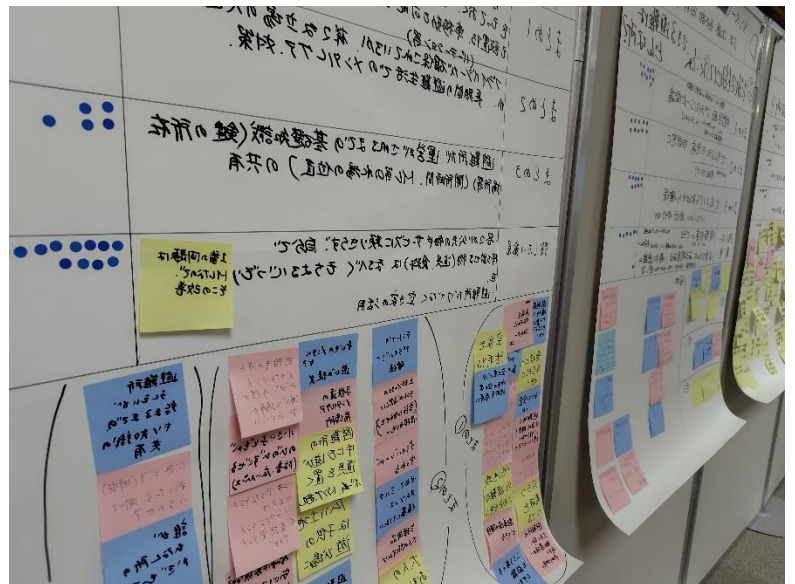
討議テーマに対して、『多治見市が現在行っている避難所』を知ってもらうために多治見市役、所 企画部 危機管理課に説明をしていただく。多治見市の備蓄品や避難所の体験をしてもらったり、他地域の避難所についての内容を知ってもらったり、現在抱えている課題を伝えてもらうことで討議がより具体的になり言葉を出しやすくなっていた。

3-6 話し合いのルール

話し合いのルールとして、次のことを確認し合った。

- ・参加者は親しみを込めて「さんづけ」で呼び合う
- ・全員が発言する（発言できるよう配慮する）
- ・他の意見を全否定しない
- ・テーマについて結論を出す
- ・自由に意見を出す
- ・アイデアの実施、実行の可否にこだわらない

- ・他の意見を参考にしても良い

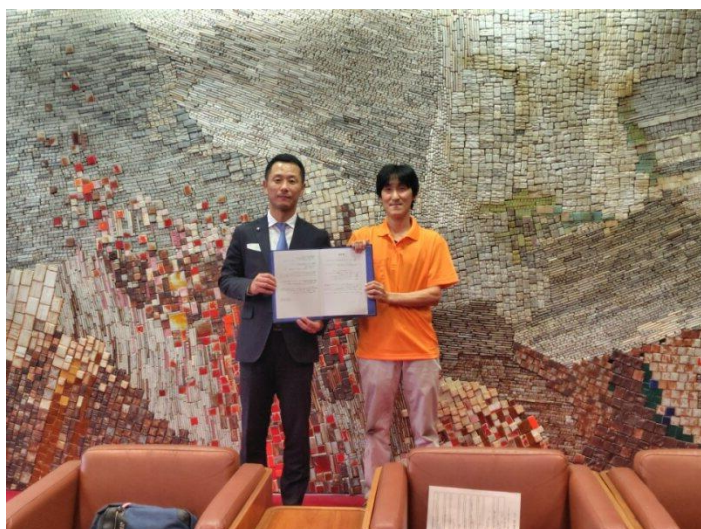
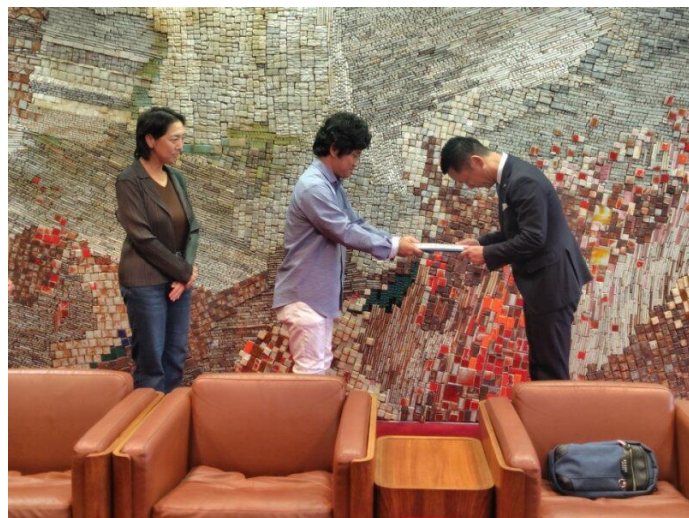


討議中の様子

4. 討議会の結果と市民からの提言

討議会の結果は、模造紙に記載された「まとめ」意見を基に精査して『提言書(案)』を策定。中間報告会で参加市民の承認を得て『提言書』として次のように作成し、2025年10月3日に高木多治見市長に手渡した。

当日参加された市民の方も参加された。



提言書提出式の様子

提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2025ー」に関する提言書

令和7年7月27日に開催されました「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2025ー」に於いて討議された意見を以下のとおり提言いたします。

大テーマ『住みやすいまち たじみ』

中テーマ『災害発生！集まりたくなる避難所をみんなで考えよう』

討議テーマ1 避難所ってどんな所？体験してみよう

討議テーマ2 だれでも安心して行くことができる避難所はどんなところ？

討議テーマ3 避難所生活であなたの支えになるモノはなんですか？

そしてあなたはどんなことなら手伝えますか？

討議テーマ4 どんなイベント・セミナーがあったら参加したいですか？

これらのテーマのもと実際に避難所の体験をしたことから、多治見市の備蓄品や備蓄量を知り、段ボールベッドの強度、簡易トイレの使い方、非常食など、正しい知識と認識を持ち、避難所に対し一様の安心感を持ちました。

また、市民は避難している人たちが少しでも穏やかに過ごせるように、音楽やカラオケ・体操やストレッチなどの指導やゲーム、子供達や高齢者の相手、ペットのお世話、洗濯や掃除、手話通訳などで手伝いができると考えていることがわかりました。

この体験をもとに市民が考える安心して行くことのできる避難所について、次のとおり提言いたします。

◎現在の備蓄品の見直しを求めます。

- ・避難所の規模に合わせた備蓄品の数の見直し
- ・個々の事情に合わせた備蓄品の見直し
(アレルギー対応、子供用ミルク、大人及び子供のオムツ等)

◎避難所には以下のような場所を設置されることを求めます。

- ・個々のプライバシーに配慮された場所
- ・友人などと話せる場所
- ・子供たちが遊べる場所
- ・レクリエーションや体操など、体を動かすことが出来る場所・・・等

◎非常持ち出し品に心の支えになるものの周知を求めます。

避難所生活には物理的なものだけでなく、心の支えが必要だと考えます。そのため、子供の玩具・趣味のもの・リラックスできるもの・お菓子などの趣向品・ペット・ゲーム・本などの心が安らぐものも非常持ち出し品の一部として周知することを求めます。

◎避難所の運営に関する基礎知識が一部の人しか知らないため、情報の周知を求めます。

避難所の運営は市民であること、備蓄品倉庫の鍵の所在、開所時間、ルール、マニュアルなどの正しい情報を知る機会を求めます。

◎今後、避難所生活をするようになった時のために、これまで行われている市域での防災訓練に加え、市内の企業の協力も得て、以下のような取り組みを求めます。

- ・一泊二日の宿泊体験で、非常食や簡易トイレを実際に利用してみる。
- ・避難ルートを確認しながら歩くスタンプラリー
- ・市内の商業施設でのPR（防災グッズの展示・販売）・・・等

令和7年10月3日
たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 後藤 正則

5. 『たじみ市民討議会 2025』の検証

～たじみ市民討議会の有用性～

昨年は、「多治見の魅力の発信方法」であり、SNS だったことから若い参加者も多かった。今年は、「避難所」かテーマではあったが、今年も 10～30 代の参加者もあり、テーマによって参加者の年齢層はそんなに変わらないと感じた。行政のイベントだと思って参加したという声もあったが、市民は、自分の声が届くのであれば、このようなイベントに興味があると判断できるのではないかと。テーマ内容と開催日時など環境を変えながら今後も結果をまとめていきたい。

市が主催する討論などの集まりに参加したことがない市民が 90%を超え、市民の声を行政に届ける手法として適しているというアンケート結果をみると、参加者は、市民討議会の目的を理解していると思われる。今回参加したことにより、多治見市の課題や取り組みを初めて認識した、との声も聞かれ、市民討議会の開催意義はあったと思われる。

6. 『たじみ市民討議会』の今後の取り組み

6-1 参加者の数

当日の欠席者が 6 名。新型コロナウイルス後より、当日の欠席は 10 名前後続く。今後もこのくらい数は考えていく必要あり。体調の心配でコロナ渦以前より、気軽に欠席ができるようになったのではないかと考えています。

たじみ市民討議会の運営スタッフも多くはないが、今年も参加した市民の方がスタッフに加入。これはとても意味のあることである。1 人でも多治見市に興味をもってもらうことが「たじみ市民討議会」の存在価値の 1 つでもあるので今年も成功といえるだろう。

6-2 今後の継続性について

現在、実行委員会は 10 人で運営されているが、ボランティアであるため入退会は任意である。この活動を継承し継続していくため、今年は参加者にハガキにて通知を行った。

委員会の参加でも、会議の方法、意見の伝え方など普段の社会生活で役立つ技術学習の場としても有意義な場になるように心がけている。今後も、引き続きスタッフを募集していく。

6-3 事後のフォロー

参加者に対しては『中間報告会』を設けて、『提言書（案）』を提示し、承認を得て『提言書』としている。また、多治見市のホームページには逐次『提言』の内容と『提言』に対する市政の取り組みを開示して頂いている。より多くの参加者にモチベーションを維持して頂けるよう、事後フォローについて検討する。

7. 協賛者ご挨拶

本年度も市民討議会が開催され、無事に終了まで進めることができましたこと心よりお慶び申し上げます。また、参加いただきました市民の皆様、企画していただきました実行委員会の皆様、そして、ご協力いただきました関係者並びに関係諸団体の皆様には深く感謝申し上げます。我々多治見青年会議所は、1955年の創立から今日まで、このまちを明るく豊かにするために運動を展開してまいりました。本年度は創立70周年の記念の年であり、これまでの運動に対するご協力の御礼と引き続きのご支援をお願いする一年として、会員一同感謝を胸に活動に取り組んでおります。

2009年より開始された「たじみ市民討議会」は、青年会議所の事業として始まり、現在では実行委員会が中心となって進められております。新型コロナウイルス感染症の蔓延から数年ほど自粛せざるを得ない時期もありました。しかし、こうして無事に討議会が復活し、続けられたことを振り返ると、市民の力はやはり素晴らしいものだと感じます。近年の人口減少に伴い、担い手の減少や地域活動の衰退から地方が弱くなっているようなニュースを見聞きすることが増えました。しかし、多治見市では無作為に抽出された市民が集まり、自分達のまちを考え議論し、具体的な意見にまとめ、行政にその声を届けています。こんなエネルギーある活動が残っているまちが、他にいくつあるのでしょうか。そんな心強い市民が住むこのまちには、まだまだ未来があると私は思っています。

これから不確実性が高く、混沌とした社会になると言われており、時代の流れに対応することが更に難しくなっており、そんな時代だからこそ、行政と市民が手を取り合い、互いの良さを活かしあってまちを創ることが重要だと思います。来年以降も引き続き討議会が開催されることを祈念し、略儀ながら挨拶に代えさせていただきます。

一般社団法人多治見青年会議所
2025 年理事長 坂崎 雄介

8. 終わりに

実行委員長の後藤正則です。

2018 年より一般市民参加、翌年よりボランティアスタッフとして参加をしました。

今年 2025 年、初めて委員長として取りまとめる事となりました。

ご迷惑をお掛けした部分もありましたが、提言書の提出まで駆け抜ける事ができました。

これも、いろんな方々のご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

今回のテーマは避難所取り上げる事となりました。2024 年 1 月 1 日に起こった能登半島地震を始め、2025 年には山林火災と避難を余儀なくされる場面が多くありました。ボランティアスタッフメンバーも防災の意識が高くなりました。防災に関しては今まで 3 回取り上げておりましたが、避難所をメインとして取り上げたのは今回が初めてになります。そこで避難所がどういう所なのか、どういう生活をしているのか、気になる事をとりあげた形となりました。

今年の参加者は 30 代から 40 代の参加者が多く居ました。働き世代や子育て世代の方が、避難所に関心をもって参加して下さったのは、それなりの危機感があるように感じました。

今回の討議会では初となる避難所の体験会を行う事になりました。

テーマ 1 でこの体験会を実施する事により以降の討議、話しやすくてきたと感じています。

体験会は好評だったようでダンボールベットの作成、簡易トイレ使い方など、ボランティアスタッフも勉強になり体験会を行ってよかったと思いました。

情報提供でテレビでは伝えきれない提供者の話など、当時の避難所の感じを伝えていただきました。体験会、情報提供、危機管理課の皆様ありがとうございました。

毎回になりますが、みんな知らない人が話し合いを進める訳ですが、討議をスタートしテーマの目標に向かって話しあっていくにつれ、緊張した顔つきが、最後には何か充実した顔つきで帰っていく感じはスタッフとしても何かを成し遂げたような一日になります。話し合いで上がったのは備蓄品の見直しや充実、避難所における生活ではプライバシーの確保、つながりや交流。行ってみたいイベントやセミナーでは参加特典つきイベント、宿泊体験など様々な意見があがり、活発な話し合いが出来ていたと感じました。

印象に残った方も見えました。討議会に参加するか迷われた方がいました。スタッフから趣旨きいたうえで勇気をだして参加。途中で帰るかとも思いましたが、最後まで残って討議をしていただきました。討議会を通して心が動き、他の参加者と意見交わしていた姿はスタッフ全員が感動しました。

最後になりますが、今回の出た意見、提言書はきたる災害に備え、これから行政と市民が一緒になって作って行くものだと思います。災害がおきた時、市民が安心して避難所にいく事と避難所がみんなの拠り所になる事を願っております。

たじみ市民討議会 2025 実行委員長

後藤正則

資料 1. 話し合いシート

参加者を 5～6 人の単位で 7 グループを編成して、4 つの討議テーマについて付箋に意見を書き出して頂き、グループの意見「まとめ」として発表して頂いた。良いと思う意見に投票し、多い順に記している。

討議テーマ 1.

避難所ってどんな所？体験してみよう

避難所体験 感想

- ・現物を見て大きさや強度を知って、学ぶことが多かった
- トイレの使い方が意外に簡単であった
- 段ボールベッドの強度（1t）に驚いた
- ・小中の体育館が狭いので、改築なら広く、現状なら増築
- ・現物を初めて見た
- トイレは使い方を殆どの人が知らないと思う
- 食事は実際に食べないといけないのか
- 災害はみんなが体験すべき
- 防災計画が必要
- ・テント・ベッドの組み立ては有意義であった
- 災害時にトイレは必要と感じた
- ・テントの仕組み、機能が印象に残った
- 素人でも組み立てられることに感動した
- プライバシーの観点から遮光可能なことは良いことであると感じた
- ・トイレの使い方が勉強できてよかった
- テントが思った以上に快適そうであった
- ・テントをもっと増やしてほしい
- 簡易トイレを配布しては如何
- ・本物を視たのは初めてである
- 実際に見て、触って体験して良かった
- 使い方は為になった
- 非常食のローリングストックは心がけたい
- ・説明に感謝
- 食料は、すぐに食べれるものを多めに用意してほしい
- ・備蓄品の品揃えが見たかった
- 段ボールベッドが良かった
- テントは広くて良かったが、空調が気になった
- ・プライバシーテントを増やしてほしい
- ・段ボールベッドの耐重（1t）に驚いた
- 座って安定感を実感した
- 組み立て、分解収納も楽なので増設してほしい
- トイレも使い勝手がよく非常時に使えると思った
- ・段ボールベッドは畳の上のように寝心地良かった
- テントは大人 4 人以上は窮屈かもしれない
- トイレの使い方を知ったのは良い経験である
- シチューと乾パン味見したかった

- ・段ボールベッドの耐重力（1t）に驚いた
- 保存食は美味しいのか気になった
- ・避難所では、テント・ベッド・トイレがあれば不満なく過ごせると思った
- テントの数が限られており、車中泊となると思う
- ・段ボールベッドは特別な工具も必要がなく、誰でも組立・分解ができるよう、工夫に感心した
- トイレは消臭性が配慮されており、凝固剤で処理される衛生的である
- テントはプライバシーが担保されることに驚いた。ただ数が少ないと感じた
- ・多治見市は備蓄をしてくれているのが分かった
- 段ボール事業者と提携しているのは良い
- 個人でも備えることが重要であることを実感した
- 個人の備えが必要とアナウンスが必要
- 税金の使い方を工夫して効率の良い備えを企画してほしい
- ・何日分の備蓄があるのか
- ベッドはすぐに来ないかも
- 簡易トイレの使い方は分りにくい、手順書を付けて欲しい
- タープは使い方を見られるとよい
- 食事は暖かいものが欲しい
- ・はじめて避難所備蓄品を見た
- トイレは知っていたが、使い方が想定外で驚いた
- トイレの使い方は普段から教宣が必要と思った
- ・テントは嬉しい。大小あると良い
- トイレの後始末の手順を表示してほしい
- 清掃グッズも一緒に備蓄してほしい。清潔を保ちたい
- 自分でも備えなくてはと思った
- ・必要なものは備蓄されといえるが、増やしてほしいものもある
- 段ボールベッドもテントも少ないと思う
- ・段ボールベッドは実際に横になって感激した
- 備蓄品がより多ければ安心
- 避難所が心の拠り所になればよいと思う
- ・段ボールベッドは組み立て簡単で丈夫だった
- 着替え、授乳にプライバシーテントは良い
- パテーションはたくさん欲しい
- ・テントが 15 張では少ない
- パテーションの実物が見たかった
- 簡易トイレは自宅でも備蓄しておこうと思った
- 乳幼児は落ちる危険性があるので、段ボールベッドには

寝せられない

- ・ 備蓄品を実際に見てイメージが出来た
- ベッドやテントは数が少なく避難所が正常に機能するのか疑問

食料などは人数分行き渡るのか心配

- ・ 凝固剤は配布すると良い

段ボールベッドは丈夫だが殺風景

- ・ 参加させて頂いて有難かった

今回の参加で災害に関して意識が高まった

このようなイベントがあったら参加できると思う

テント、段ボールの体験も貴重なものになった

- ・ 備品は備蓄が少ないと思った

段ボールベッドはスペースを使いすぎ

簡易トイレは処理に手間がかかって年寄りや子供には難しい

おやつなど食料のバリエーションが欲しい

討議テーマ 2.

誰でも安心していく事ができる避難場所はどこな所？

Aグループのまとめ意見

1. 誰でもいつでも情報を手に入れられる
LINE・アプリ・おりベネットワーク（7）
2. 幼児から高齢者まで全員快適に過ごしたい
（キッズルーム）（フリースペース）（11）
3. 備蓄品の充実。
☆アレルギー対応 ☆衛生用品 ☆乳幼児品（11）

残したい意見

- ・ 移動方法（迎え）
- ・ 発電設備（安心して電気使いたい）

Bグループのまとめ意見

1. インフラを整える
 - ・ まず避難場所の周知（カンバン）
 - ・ 学校の体育館を広く良いものに
 - ・ スーパーなど開放してもらう
（歩いて行けと言うなら自転車ください）（7）
2. 中身を整える
 - ・ プライバシーを守れる、テント式を増やす（1人用、家族用）
 - ・ 夏は涼しく、冬はあったかく
 - ・ 一日一食でもいいのでおいしい温かいご飯（7）
3. まとめ2を日常に近づける
 - ・ エンタメの充実・・・例えばカラオケ（防音）、アイドルに来てもらう
 - ・ 医師の常駐
 - ・ マッサージ機も備蓄
 - ・ ペットも安心（9）

残したい意見

- ・ 宿泊体験会

Cグループのまとめ意見

1. 心の安心
避難所運営のマニュアル
①役割 ②実施 ③ローテーション（8）
2. 物とスペースの安心
テント・耳せん・掲示板・友だちと話せるスペース（6）
3. 娯楽の充実
リクレーション、体操、ゲーム、遊びコーナー（9）

残したい意見

- ・ そのための事前準備
- ・ 役割を決めたマニュアル
- ・ 避難所体験をする 一日中
- ・ 避難所の現在の人数 リアルタイム
- ・ 事前準備の重要性 避難所訓練他
- ・ 事前にどこへ行くかアンケート
- ・ これだけの専門家が待機してます情報
- ・ 地域ごとの避難訓練があると良い

Dグループのまとめ意見

1. 衛生面・プライバシーに配慮
 - ・ 簡易シャワー、各施設との連携でお風呂を
 - ・ トイレ、ウェットティッシュ、清掃道具、ビニール手袋
 - ・ パーテーション（11）
2. セキュリティを考慮 相談窓口
 - ・ センサーライト 常駐スタッフ（10）
3. 交流エリアを初めから確保
 - ・ レクリエーション・談話・体操など（9）

残したい意見

- ・ 情報収集ができる w i f i TV ラジオ
- ・ 必要なものがある程度ある・・・備蓄倉庫の使い方
アルミホイル、ラップ、筆記具、おむつ、子ども用の食事、ミルク、おやつ、おかゆ、救急セット、生理用品、歯磨き、タオル、ガムテープ、紙

Eグループのまとめ意見

1. 普段から避難所を使用しなじみのある認識をもっておく
場所が誰でもわかるように、目立つ看板も設置する
車移動も可能なか把握しておく（9）
2. プライバシーが確保されているか（パーテーションなど）
様々な立場の人たち（弱者）を守れるか
長期間の避難生活でのメンタルケア・対策（5）

3. 避難所が運営がされるまでの基礎知識（鍵の所在場所等）（開所時間、トイレ等の水場の位置）の共有（6）

残したい意見

- ・各々が公共のものやサービスに頼りきらず、自分で持ち出せるも物（道具、食料）はなるべくもちよる心づもりを
- ・避難所だけでなく空き家の活用
- ・一番の問題はトイレなので、そこの改善

Fグループのまとめ意見

1. つながり
日頃からの交流を大切にし、いざとなった時に助け合う
日頃の交流→町内会など（10）
2. プライバシー（4）
3. 物資の備蓄
・備蓄品を豊富に
市レベルのローリングストック
非常食→日常で消費（4）

残したい意見

- ・SNSの活用
- ・小さい子供
- ・避難所での役割

Aグループで出た意見（付箋）

- ・よぶくるバスがもしもの災害時に高齢者交通手段弱者に対応出来たら
- ・心の面（カウンセリング）現状ボランティアで聞き取りの活動あるよ
- ・車は？ 3km歩くの大変→家にいる 駐車場は？ 迎えに来てほしい。キャンピングカーがあったら
- ・アレルギー対策してほしい
- ・アレルギー 卵・小麦など あと大豆 小中の時、豆乳スープとか出てきて困った。
- ・食料、衛生品等の物資の提供先を充実させてほしい。運送関係も
- ・女性のための配慮 ミルク
- ・子ども、偏食→どうやったら楽しく食べてもらえるか？
- ・災害時の停電対策として指定避難場所は自家発電設備があって欲しい
- ・自分が避難できる場所は分かる
- ・自力で避難できない人（高齢者）場合になった時の避難方法は
- ・キッズルーム
- ・指定避難場所は耐震工事済みであってほしい
- ・窓口があり分かりやすい事

- ・フリーのスペースがある 共有できる場所（安否の連絡ができる w i f i ・充電等）
- ・分かりやすい手順書
- ・オリベからの情報
- ・アプリ・サイト知らなかった→市民全員強制的に利用させる→子ども・教育に取り入れる「子どもが反応してくれる」かも...
- ・防災無線の音割れが多いため、事前にスピーカーの点検も必要
- ・w i f i
- ・0ファイブジャパン
- ・防災無線で開設のお知らせ
- ・アプリ
- ・電力は?→発電はどれくらいできる？ w i f i とかスマホとか 夏・・・エアコン 冬・・・ストーブ 光・・・LED

Bグループで出た意見（付箋）

- ・医療機関が近いところ
- ・医師が常駐しているところ
- ・エンタメ ゲーム、アイドル、運動
- ・カラオケ、ダンス、ヨガ、ラジオ体操
- ・おいしいご飯 乾パン？
- ・ベッドはウォーターベッド
- ・水分は経口補水液も準備してもらおう
- ・便所、風呂 水とか日常生活ができる所
- ・障がい者とか子どもとかのために不安になった時のために専門の人がいてくれると心強い
- ・マッサージ屋さん（マッサージ器の備蓄）
- ・情報をうまくタイムリーに伝えてくれる人がいるところ
- ・被災者情報が集まる場所
- ・避難所で1泊体験会があるといい
- ・高齢者の方は冬とか血流が悪くなるといけないから、足湯とかマッサージとかあったら心身ともに良いかも
- ・モバイルバッテリーとかあると助かるかも
- ・エアコンが欲しい 夏でも涼しい
- ・プライバシーを守りながら生活できる
- ・アニマルセラピーがいやしになるかも
- ・小さい子供を持つ家庭を分ける配慮
- ・心を病んでしまった人のためのカウンセラーがあったほうが良い←ボランティアでも良い
- ・自転車配給 車渋滞対策
- ・2次災害の不安がないところ
- ・近くても坂があると×
- ・なるべく坂や階段の少ない場所
- ・歩いていける近い避難所
- ・屋外に開けた避難所

- ・小中学校に避難所は限らなくて良いのでは スーパーとか
- ・小中学校の体育館をもっと見直す 広くする
- ・どこが避難所？分かるもの
- ・避難所まで～mカンバン
- ・耳が聞こえない人、目が見えない人でも安心できるような掲示板？があったらよいと思う
- ・普段から行き慣れている場所 学校や解放されている体育館、スーパーなど
- ・物流が届きやすい場所
- ・見た目いい避難所（木造）
- ・たまにはおいしい食事
- ・コーヒー飲みたい
- ・ポケットティッシュの代わりに簡易トイレを配る
- ・夏に災害が起きた時のために冷却グッズの常備があると良い←多治見は特に
- ・夜は暗く、朝は日の出の光が入らない
- ・清潔
- ・冬はちゃんと暖かく、夏は涼しく（free）
- ・ヒーリングミュージック キャンプファイヤー BB

Q

- ・やわらかいしき布団
- ・ペットと安心して一緒に過ごせる
- ・ダンボールを使用しなくても守られるプライバシー
- ・夏には塩分タブレットみたいなものを置いておいてほしい
- ・身体・心の病気の人の薬の心配
- ・女性のためにナプキンや赤ちゃんのための粉ミルクなどがあると良いな
- ・換気設備がある
- ・テントのようなもので世帯を分ける
- ・ガソリンスタンド必要 車動かなくなる
- ・多治見は災害が起きたら道が通れない

Cグループで出た意見（付箋）

【娯楽】

- ・ボードゲーム
- ・軽スポーツ 備品
- ・土嚢何kgゲーム
- ・娯楽ができるシステム 大道芸人 歌手
- ・子どももいるからゲームがあると良い（カードゲームなど）

【健康 衛生】

- ・マットレス まくらなど 寝具
- ・ウェットシート おしりふき かぶれ薬
- ・備品情報 在庫ではなく1軒につき具体的な数
- ・携帯の充電器+LED機能
- ・筋肉体操 イス・床

- ・必要な物 発信したら聞いてくれる機関
- ・ヨガインストラクター
- ・レクリエーション

【物】

- ・ろうそく 火災が防げるように
- ・トイレに行くまでにLEDランタン
- ・出入口にLEDライトを置いて使用する
- ・必要なものを書けるボード
- ・お絵描きができるように書くもの
- ・食料（おやつ子ども用）があると良い
- ・テント プライベート
- ・汚物片付け用手袋
- ・LEDランタン LEDライト 災害時に集めて使う 避難所に集める
- ・防臭ダストBOX

【場所】

- ・友だちと話す（遊ぶ）スペースが欲しい
- ・パーソナルスペースの確保

【ソフト面】

- ・仕事の振り分ける責任感 やりがい メンタル保ちやすい
- ・仕事をローテーション（他人任せにしない）
- ・年代別の事前準備
- ・避難所を生きがい場所に
- ・入浴スペース
- ・女性生理用品
- ・誰がいるのか明確化させる
- ・コーディネーターのような役割
- ・分担（人の）
- ・赤ちゃんに必要な用品があると良い

Dグループで出た意見（付箋）

- ・きれい
- ・衛生的 ウェットティッシュ、清掃道具（トイレも）、ビニール手袋
- ・プライバシーが保たれるパーテーション
- ・プライバシーがある
- ・パーテーション等で個人スペースが確保されているとありがたい
- ・そうじ道具
- ・セキュリティがある程度ある（トイレなど）
- ・安全なところ（危害が加えられない）
- ・相談窓口となるスタッフ
- ・コドンが楽しめるスペース 大人レク
- ・知り合いがいてほしい
- ・知らない人が集まる・・・× 交流できるスペースに
- ・備蓄倉庫の使用法 開ける人が来れるとは限らない AED・タオル

- ・センサーライト ダンボールベッド
- ・必要なものがある程度そろっている（スコップ、石鹼、浄水器、歯磨きセット、生理用品、おむつ、筆記具、ガムテープ、救急BOXなど）
- ・養生シート ビニールひも
- ・何がどこにあるか見ただけで分かる
- ・w i f i ラジオ TV
- ・災害時の自販機利用
- ・喫煙関連
- ・マンホールトイレ 水道→給水車 使用法
- ・全公共施設のEVに仮設トイレ できればスーパーにも
- ・体調に配慮されている 香りがしないインシュリンなどの部屋←一人で利用できる
- ・ペットが5匹いるので避難所には行けないと思います。高台に住んでいるので、下の道に降りる道が駄目になると移動できない
- ・長期おふる いろいろな施設のものを開放←支援

E グループで出た意見（付箋）

- ・避難者になる場所に、普段から親しみを持てるようにイベントしたい
- ・名前をかんたんに シェルターとか
- ・普段から多目的に使う
- ・子ども食堂とか
- ・避難所を日頃から開放？して行きやすい場所にしておく
- ・避難所マップがあればいい
- ・目立つ看板をつける
- ・避難所の大きい印、看板があるとわかりやすい
- ・避難所までの道の矢印
- ・避難所の場所がどこにあるか分からない（近くにあるかなあ）
- ・場所が近くにあればいいけど、遠いところにある時は車で行ってもOK？
- ・他地域の避難所にも足を運ぶ
- ・駐車場の確保ができる
- ・浮浪者の方も避難しやすいように
- ・空き家を活用する
- ・空き家バンク
- ・他市の空き家活用を参考に
- ・テントでのプライバシー保護
- ・上部メッシュのテントが欲しい（季節に合わせて屋根ありも。）
- ・プライバシーが守られる
- ・せめてミルク・オムツは備蓄してほしい
- ・生理用品 大人の紙オムツ
- ・大人のおむつも用意する

- ・子どものメンタルケア 遊びの提供
- ・子供達のメンタルケア 居場所
- ・避難所の中にも遊び道具を置く ボール・トランプ・花札
- ・広い土地は子供の遊び場に
- ・避難所の防犯
- ・単身女性や子どもの避難者 避難所の真ん中のスペースへ
- ・女性のプライバシー安全が守られる
- ・避難所の外に大きなテントがあり、子供が遊べる場所があったらいい
- ・小さい子供がのびのびすごせる（防音・広いスペース）
- ・色々なテント たとえばドッグランテント 談話室テントなど
- ・ペットは家族なので安心して連れていける
- ・老若男女に（年齢とか）合わせた区域
- ・女性のプライバシー・安全が守られる
- ・避難所運営が始まる前の基礎知識の共有
- ・何処ごろ（時間）行ったら開いているのか？
- ・誰が避難所のかぎもってる？
- ・家から出て避難所に行く時、に持っていったらいい物は何？

F グループで出た意見（付箋）

- ・防災対応を中心にした町内会へスリム化する
- ・多治見の若い人
- ・町内での深いつながり
- ・行き慣れている場所
- ・ストレスの発散方法が多々ある
- ・町内会（防災）（イベント）（子供）（お年寄）分ける。
- ・子供食堂がもっと増え、災害時も活用できるといい
- ・ローリングストック 日頃の交流 助け合い
- ・助け合いができる 備蓄ができる プライベート空間 物資がある
- ・報道で小さい避難所より、大きい避難所の方が、物資が届くと聞いている
- ・自分が過ごせるスペースが明確にある
- ・プライバシーが保護されている
- ・自分のスペースが確保されている（つい立てなど）
- ・プライベート空間をもそれぞれがもてると安心。（着替えなどの）
- ・自分の時間が取れる
- ・他人との交流をしなくていい
- ・備蓄物資をたくさんにする→日常への利用 市レベルのローリングストック
- ・備蓄の回し方
- ・食料品・備品が充実している
- ・自分が生活している所から近い所 学校区内の方が道

- 路等分かっているので行きやすい
- ・建物がしっかりしている
- ・ペットも連れて行きやすい
- ・空調が整っている
- ・避難所の格差
- ・(ペットも) 子供がいても嫌な顔をされると行きづら
いのでそういうのが無い様何かしらの配慮があるとい
い
- ・アレルギーや病気に対応できる場があると安心
- ・子供が不安にならない場所
- ・体調不良者や小さい子供等が隔離でき静かに過ごせる
場所がある
- ・避難所に行って尋ねる人(分かっている人・リーダ
ー?) がいる
- ・どこに何があるか どう使えば良いのか 分かり易い
- ・避難所の最低限のルールが明確
- ・秩序が守られている(ルールがある)
- ・やりたい人が集まってやってみると良い それを広報
等で皆に伝えればメンバーが増えるかも

討議テーマ 3.

避難所生活であなたの支えになるモノはなんで すか？そしてあなたはどんなことなら手伝いま すか？

Aグループのまとめ意見

1. 避難所では心が荒んでいるので、忘れられがちな
気分のあがるもの(おしゃれ、子供のおもちゃ、ペ
ット、趣味、神仏、おいしい食事、携帯電話等)に
も意識する(6)
2. 充実した生活用品(衛生用品、眼鏡、常備薬等)
があることで安心できる(5)
3. 避難所にいる人が各々できること、得意なこと
を手伝う(炊き出し、力仕事、配膳係、清掃係、
子守り、お年寄りの世話、話相手、言葉で励ます、
情報収集、安全確認、けがの治療等)(8)

残したい意見

現金(インフラが壊されていることが多いため)、小銭、
友人、知り合い、ペット(犬、猫、鳥など)

Bグループのまとめ意見

1. <人との関り>
 - ・誰かと話したい、話を聞きたい…ボランティアを
集める
 - ・談話室があるといい(8)
2. <個人的な趣味>
 - ・SNS、スマホ、ネット環境

- ・一人の時間
- ・小さい子供など体を動かす(8)

2. <避難所の運営>

- ・あったかいご飯
- ・助け合い
- ・色々わかる人(7)

残したい意見

- ・ペット可の避難所
- ・娯楽品の備蓄
- ・小さい子の遊ぶ場、本の読み聞かせ…中高生のボラン
ティア

Cグループのまとめ意見

1. <急>避難所のボランティア
 <手伝>物資の運搬、炊き出し→ごみ処理、清掃、
洗濯、子供の見守り、各種相談したい、手話通訳
(9)
2. <中>リラックスタイムの設定、リフレッシュタ
イム
 <手伝>カフェ、運動、レクリエーション、音楽、
話場の相手(15)
3. <全>個人の支えとして自宅より持って行きたい
もの
 本、毛布、布団、まくら、アロマ、イヤホン、モバ
イルバッテリー、ペット(5)

残したい意見

<支>ペット可の避難所

乳幼児向けのサポートがある避難所

Dグループのまとめ意見

1. 日常に近い生活、温かい食事、清潔さ
 ↑
 手伝い(炊き出し、掃除)、力仕事、人手のいる
仕事(3)
2. コミュニケーション=両立=プライベートの確保
 ↑
 お年寄りの介護・サポート、小さい子の見守り
(4)
3. 心を豊かにするもの(5)
 ①音楽・ゲーム②軽い体操③お出掛け
 ↑
 頼れるエキスパート
 映画をスクリーンに映す、イベント企画

残したい意見

掲示板を活用して(まず市が作ってください!)個人の
出来ることを把握してリーダーを決めて役割を分担
誰が何をできるのか、するのかを解決できる

E グループのまとめ意見

1. 必需品…薬、耳栓、サプリ、基礎化粧品、充実した食事、ミニ冷蔵庫
→栄養バランスを考えた料理、整理整頓、力仕事（9）
2. 癒し系…ペット、エクササイズ用品（ボールなど）、マッサージ用品
→簡単なエクササイズ、ペットのお世話（7）
3. 娯楽系…ゲーム（トランプ、Switch）、スマホ、マンガ、お菓子
→一緒に遊ぶ（6）

残したい意見

安心の為、復興状況の情報がほしい！

F グループのまとめ意見

1. 集団生活だからこそ、個人が尊重できる時間や空間。
静かな空間、一人でお茶を飲める空間、スマホを使える環境、連れてきたペットとの生活、家族の写真（11）
2. みんなで楽しく支えにして行けるものとして、トランプ、本、カードゲーム、出来立ての温かい食事、音楽、キッズスペース、麻雀、カラオケ、筆記具、子供用お絵かき用品、声掛け、雰囲気作り（6）
3. 出来ること。設備の管理。炊き出し、食事の準備、配膳、掃除、声掛け、カウンセリング、子供の遊び、見守り、介助のお手伝い、掲示板づくり、洗濯（6）

残したい意見

環境整うと、心も安定！

家族単位のテント、畳がある（子育てしやすい）

子供が泣いていい場所、灯の確保、アイマスク（暗くないと眠れない人）

A グループで出た意見（付箋）

<支えになるもの>

イヤホン／スクイーズ（ストレスグッズ）／携帯電話／入浴／除菌グッズ／睡眠／食事（おいしいもの）／ノンアルコールビール／除菌シート／現金（小銭）／おしゃれ／知り合い／常備薬／編み物／ペット／ヘアグッズ（くし、化粧）／保湿グッズ（化粧水、乳液）／ネイルグッズ（メイクグッズ）／歌を歌う（励ます）

<手伝える事>

炊き出し／元気な人は力仕事／言葉で励ます／話し相手／物資を配る／清掃（トイレ等）／子守り（ベビーシッター）／点呼（安否確認）／情報収集／赤ちゃんお年寄りの下の世話／髭剃り／傷病手当（治療）

B グループで出た意見（付箋）

<まとめ1>

- ・人との会話、コミュニケーションをとる
- ・人々が話し合えるような生活場所があればいいかな（談話室のような所）
- ・人との関り（一人で抱えない）
- ・人との交流・談話（安心感）
- ・話を聞いてもらう、や、話したい？
- ・話し合いで決めてもいいですが、それより自分から進んで出来ることを探してする

<まとめ2>

- ・物を作る、絵を描く
- ・寝る→睡眠をとる
- ・お風呂に入る、体を動かす、本を読む？
- ・娯楽物など備蓄しておく
- ・音楽を聴く、歌うのが心の支えになる
- ・推しを見る？
- ・くつろげる場所、ストレス発散できる場所
- ・SNSやテレビ、ラジオなどの速やかな設置
- ・小さい子供だったら、体を動かしたい、ゲームしたいがあると思う
- ・一人の時間、パーソナルスペース
- ・マッサージがあつたらいい→ボランティアを集める
- ・買い物が支えの人は？→避難所の住所をしっかりとる？

<まとめ3>

- ・助け合い、炊き出し、片付け
- ・何が出来るか、その時にならないと分かりませんが、誰か避難所に色々分かる人がいてくれるといいかも
- ・あたたかいご飯（いろんな種類）
- ・力仕事なら手伝えそう
- ・避難所生活の中で、小さな子供たちはみんなで支えられるような感じがいい

<その他>

- ・動物とたわむれる？ペットと一緒にいる
- ・どれだけ避難所で過ごさなければいけないのか情報、助けがいつ来るのか知りたい
- ・情報（社会情報）
- ・避難所によってのペット可・不可の場所が前もって分かれば、ペットが支えになる人にとって心強い？

C グループで出た意見（付箋）

<①>

- 【支】避難所にいる人たちのために何かする（ボランティア）
- 【手】炊き出しの協力
- 【手】生ごみ堆肥化
- 【手】力仕事、体力仕事
- 【手】物の運搬
- 【手】清掃、洗濯

- 【手】掃除（トイレとか）
- 【手】子供の見守り（託児）
- 【手】ケンカの仲介役
- 【手】手話通訳を昔やっていたので、通じる範囲では手伝えます
- 【支】今後の住む場所や仕事等の相談できる場所
- <②>
- 【支】せっかくなのでサバイバルを楽しむ（リラックス）
- 【支】コーヒータイム
- 【手】体育教室
- 【手】子供と遊ぶ
- 【手】簡単なマッサージ
- 【支】楽器（防音の環境）
- 【支】花
- 【支】交流の場、友達や親しい人や近所の人と話せるスペース
- 【手】話を聞く
- 【支】静かな時間
- 【支】人とのコミュニケーション→【手】お話
- 【支】生活を戻すための知恵
- 【支】植物が沢山あるところでのカフェ施設、おいしいおやつ
- 【支】運動
- 【支】身体を動かせる場所、ストレッチとか
- 【手】子供向けレク、ストレッチ等の実施
- 【手】子供向け、自然で遊ぶ体験
- 【支】ギターを弾いて歌えるので【手】ライブ活動で手伝えます

<③>

- 【支】本、小説
- 【支】自分の毛布
- 【支】まくら
- 【支】アロマ
- 【支】音楽、イヤホン
- 【支】ペット、猫
- 【支】モバイルバッテリー

Dグループで出た意見（付箋）

- ・食事？
- ・話し相手→聞いてあげることもできる
- ・家族、友人との会話ができれば落ち着く
- ・知っている人がいること
- ・最低限の生活、「日常」に近い生活←スライドを見ていて、一番支えになるのはこれだと思った
- ・携帯他、情報を得るツール
- ・困ったときに頼れる専門家（医者、行政、他）
- ・コミュニケーションはかることのできる雰囲気、環境
- ・仲のいい人との交流+ひとりの時間

- ・プライバシーを守れる空間
- ・エンタメ、娯楽
- ・子供の視点で支えになるもの
→①親、兄弟姉妹②娯楽（テレビ、ゲーム、おもちゃ）
- ・自分の好きなもの、音楽、軽い運動
- ・ストレスを忘れさせてくれるもの、没頭できるもの、本
- ・移動手段、避難所からお出掛け
- ・手伝い家事（食事、清掃他）
- ・炊き出しのお手伝い
- ・炊き出し
- ・物品管理の手伝い、整理
- ・避難所の掃除
- ・仕事上の知識
- ・仕事での知識を生かせられれば
- ・人手、力のいること（自主ではなく必要とされたら）
- ・「どんなことなら手伝えるか？」
→肉体的な仕事、大学生、高校生は強い
（生徒会などが主体となって活躍出来たらより良いのに…）
- ・お年寄りのお手伝い
- ・老人の軽い介護、小さい子の見守り
- ・報連相をこまめにやる
- ・「どんなことなら手伝えるか？」
→疑問に思ったこと
 - ・誰が司令塔になるの？リーダーは？
 - ・どう指示を手伝ってくれる人に伝えるの？

Eグループで出た意見（付箋）

<いやし系>

ボール／トレーニング用品／マッサージ用品／ペットのご飯／出張ネイル／温泉／サウナ／娘の笑顔／知り合い／復興状況の情報

<必需品>

薬／耳栓／サプリ／ミニ冷蔵庫／栄養バランスを考えた料理／アイマスク／持病の薬／化粧水／バック／ドライヤー／充実した食事／力仕事／整理整頓

<娯楽系>

ヘッドライト／推しのDVD・グッズ／トランプ／マンガ（サバイバル系）／スマートフォン／Switch／嗜好品（コーヒーなど）／お菓子／カラオケ／お散歩

<できること>

ペットの世話ならできる／簡単なエクササイズ／外国人支援

Fグループで出た意見（付箋）

<支え>

- ・話せる場所

- ・優しい言葉
 - ・長期になるなら楽しめる物（みんなで）、年代にあったもの
 - ・トランプ、ボードゲーム
 - ・キッズスペース
 - ・子供用お絵かき用品
 - ・居心地のいい生活環境
 - ・音楽（楽器）
 - ・おいしい食事、出来立ての食事
 - ・過ごしやすい避難所
 - ・充実した食事
 - ・静かな空間
 - ・一人でお茶、コーヒーを飲む時間
 - ・家族の写真
 - ・連れてきたペットとの生活
 - ・スマホを使える環境
 - ・ノートに心の事を書き出せる筆記具
 - ・本、マンガ
 - ・甘いもの
 - ・設営関係
 - ・避難所が学校なら学校にあるものの手配
 - ・子供の遊び、活動の発案
 - ・子供の遊び、見守り
 - ・子供、介助のお手伝い
 - ・声掛け
 - ・雰囲気づくり
 - ・簡単なカウンセリング
- <できること>
- ・炊き出し
 - ・食事のお手伝い
 - ・掃除
 - ・掲示板づくり
 - ・洗濯

討議テーマ 4.

どんなイベント・セミナーがあったら参加したいですか？

Aグループのまとめ意見

- ◎学びにつながる
 - ・AED講習会
 - ・地震体験（3）
- ◎楽しい体験ができる
 - ・街歩き（危険な場所を知る etc）
 - ・料理教室（食べられる野草が分かる etc）
 - ・防災グッズのみのキャンプ（7）
- ◎地域交流ができる

- ・消防隊員との交流（洗車・乗車体験）
- ・子どものお泊り会（4）

残したい意見

- ・資格取得のお金の負担がない（少ない）
- ・近くで実施（市内等で）
- ・被災地ボランティアセミナー

Bグループのまとめ意見

- 体験型イベント（4）
- 参加特典付きイベント（9）
- 避難ルートの体験・確認（4）

残したい意見

- ・その他の知識

Cグループのまとめ意見

- 市内一斉防災デー
 - ①ライブやマルシェ、映画上映、宿泊体験 etc 魅力的なイベント（21）
- 市内一斉防災デー
 - ②セミナー・体験
 - かんたん浄水器の作り方、倉庫の入替試食、防災グッズ詰めてみようゲーム（案内・販売）（11）
- 地域ごと
 - ・スタンプラリー、避難所まで歩く、景品！（危険な場所確認）（防災グッズ、地域ごとに違う）（10）

残したい意見

- ・SNSと紙、両方で情報発信
- ・多治見市職員 or 校区対抗 防災グッズで3日間生活やってみた←中島さん出演OKだそうです！
- ・（SNS）イベントやセミナーでなくても…

Dグループのまとめ意見

- ◎避難所1泊2日体験
 - ・地域単位／AED
 - ・実際体験された方の意見を聞く（5）
- ◎イベント（お祭り etc）に絡めて、炊き出し体験・試食
 - 参加率の向上（3）
- 堅苦しいイメージの払拭する為にポップなネーミング
 - ・平日開催ばかりなので土日に開催
 - ⇒子供だけでなく働いてる大人に（4）

残したい意見

- ◎市役所に1コーナーで防災避難所を紹介するブースを作る
- ◎企業（バロ）の協力を得て「P」で防災グッズを展示／コラボ商品を販売

E グループのまとめ意見

1. イオンなど参加しやすい場所で行う
(公民館／体育館はわざわざ行かない！) (1 4)
2. 無料体験・無料配布
→地震の揺れ・避難所体験をスタンプラリーなどで
楽しく体験
有名人を呼んで参加しやすくする／動画で配信 (1
0)
3. 自衛隊を呼びセミナー
→食べられる野草を知る→料理方法／火の起こし方
など (1 3)

残したい意見

- ・防災グッズのリスト／買える場所を知りたい

F グループのまとめ意見

1. ◎家庭のできるイベント
・家で防災食を作って、写真や絵を提出した人全員
に参加賞を配る (例：非常食／防災用品)
・提出物は公共物に掲示 (1 3)
2. ◎市全体でのイベント
・子供向けのイベントをすると大人も集まりやすい
ので子供と参加できるイベント。コンテストみたい
に防災食のレシピコンテスト。市民賞市長賞
・多治見の飲食店に防災食を作ってもらい、興味を
持つ足がかりにしてもらう。
・その横に防災の知識がつく体験コーナーなどを作
る (子供フェスタ) (1 2)
3. ◎地域ごとのイベント
・地域ごとの避難訓練
・特に高齢者が参加できるイベント
・避難場所の確認のための体験イベント
・賞味期限が近づいた備蓄品を使った炊き出し (7)

残したい意見

- ・子連れで参加しやすい
- ・託児ありでじっくり話を聴ける
- ・避難所の場所確認のための体験イベント
- ・避難所の場所に行きやすく

A グループで出た意見 (付箋)

- ・訓練の仕組みを知るセミナー
- ・何を持って行けば良いか分かるセミナー
- ・A E D講習会
- ・被災地ボランティアセミナー
- ・保育付の講習会 防災関連
- ・何も持たずに参加できるセミナー
- ・被災者体験
- ・宿泊・体験型セミナー

- ・避難用具を使ってみる
- ・子供会のお泊り会
- ・ダンボールベッドで一晩眠る
- ・救助体験 (担架使用)
- ・地域散歩
- ・地震体験車
- ・避難所生活体験セミナー
- ・街歩き (消火器の場所などを知る) ←秋に
- ・防災グッズのみのキャンプ
- ・緊急車両の洗車体験
- ・講習会 資格費用全額負担
- ・補助制度→全額制度とすべき
- ・消防体験 消防車来る
- ・緊急車両の製作過程の見学会
- ・料理教室
- ・野草～食べられるものは何か
- ・試食会がある
- ・消防・警察等関係者との交流強化
- ・ビンゴ大会 (防災グッズが当たる)
- ・筋トレ体験
- ・チェキ会
- ・消防士の筋肉選手権
- ・消防士イケメンコンテスト

B グループで出た意見 (付箋)

- ・親子で体験できるセミナーや、ゲーム感覚でできる説
明会があると良いかも
- ・炊き出し+防災訓練 実際体験
- ・避難所の宿泊体験→一日泊まってみて何が必要かどん
な事に困ったかを考えてもらう
- ・家族で楽しく体験できるイベント おみやげ付き
- ・セミナーイベントがある所に少し屋台みたいなのがあ
ると子供が来るかも
- ・学校のイベントとしてセミナーをひらく
- ・火災に対するセミナーをひらく→体験・危険性を伝え
る
- ・参加したら何かもらえるイベント
- ・イベント事に一緒に参加する→夏祭りのところで参
加?
- ・サバイザル (サバイバル?) という名の防災体験
- ・うながっぱとできる親子体験セミナー
- ・知識をつけるだけでも良いかも→川に溺れた時の対応
火災の対応 地震の対応
- ・避難の体を動かせるようなセミナー・イベントがある
といい
- ・避難ルート／場所の実際体験 危険区域の認識
- ・川が氾濫した時の対応に関するイベントやセミナー
- ・地域ごとの顔合わせセミナーみたいなのを作って災害

が起きた時のための周りとの交流できる場を作っておく

- ・災害があった時に障害者の人に会った人にどう対応すればよいかのセミナー・イベント
- ・補助金の事に関するセミナーをもっと増やして参加してもらおう→知らない人が多いと思う

C グループで出た意見（付箋）

- ・市内一斉防災デー
- ・ここでは〇〇体験　ここでは〇〇セミナーというように地域地域で出し物？を
- ・チャリティーライブ（イベント）
- ・防災啓発ライブ&マルシェ「キッチンカー」
- ・音楽フェスのご飯等が防災のイベント
- ・避難所宿泊体験
- ・映画の上映会　in 避難所
- ・テントもあり
- ・マラソン or スタンブラリー景品あり　危険な場所の確認
- ・防災グッズを景品に
- ・場所ごとに違う景品
- ・防災グッズの案内販売
- ・防災グッズを詰めてみようゲーム（かばんに）
- ・ダンボールベッド早組大会
- ・非常食の試食会　イベント
- ・焚火　マシュマロ／焼き芋
- ・倉庫備蓄　中身もらえて入替
- ・コンポストトイレ作り
- ・簡易浄水器の作り方セミナー
- ・毛布を使った人の運び方（救急）
- ・防災意識を持つためのミニ討論会（本日のミニ版）
- ・動画等で若者の興味を
- ・実際に防災グッズで生き延びるイベント
- ・SNSで魅力的な発信
- ・若い世代とそうでない世代との情報の使い方

D グループで出た意見（付箋）

- ・避難所の見学／備蓄内容（目で確認）
- ・簡易ベッド組立大会？
- ・避難所一泊二日体験　ベッド／トイレ／掃除
- ・避難所一泊
- ・土日であればいい。平日は難しい
- ・避難所（体育館）でスポーツ／かるた大会？イベント／茶会
- ・宿泊体験会
- ・AEDを使った体験
- ・実際体験された方の意見を聞く
- ・市役所から被災地支援に行かれた方の話を避難所で具

体的なイメージを持てるように話してもらう

- ・校区の大きな避難所での開催ではなく、近くの小さな避難所での避難生活がイメージできる訓練設備の紹介
- ・自分ができる事を申告できるなど主体的に参加できるもの
- ・支援物資食品の試食体験
- ・多治見駅で炊き出し試食（夏祭りの時とか+陶器祭り）←参加率は心配
- ・炊き出す体験
- ・備蓄食品で賞味期限の近いもので実際作ってみる（調理）
- ・市役所の1コーナーで防災／避難所を紹介ブース
- ・ポップな感じ、訓練となると嫌だなーと思ってしまう
- ・（すでに行われている事だけ）小中高で防災について考える機会を作る←良い取り組みだと思う（by 大学生）
- ・今日のこの討議会のようなものを行う（3000人を抽出して...）←防災について考える機会になる／勉強になる

E グループで出た意見（付箋）

- ・市のイベントに行ったことがない
- ・子育て世代が優先され過ぎてないか
- ・参加しやすい形にしてほしい
- ・フラット参加できる多治見祭りとかでブース
- ・避難場所の収容人数など知りたい
- ・子供のいる家庭／大人だけの家庭別でイベント
- ・世代を一緒にしてほしい
- ・避難場所を分かり易く知りたい（Googlemap など）
- ・無料配布炊き出しで無料ご飯
- ・スタンブラリー／クイズラリー
- ・ローリングストックが期限切れになる前に食べる
- ・地震ゆれ体験
- ・避難所体験
- ・多治見市で起こる可能性のある災害についての説明
- ・VRを使う
- ・防災体験ラリーを作って賞品を出す
- ・有名人を呼ぶ　大谷翔平　中日
- ・自分の家が震災／水害が起きた時の被害シミュレーション
- ・地盤／耐震の調査　変な業者は信用できないので市がやってくれれば
- ・無料 or 参加報酬あり
- ・「あんぱん」つながりで出演者呼んでほしい！
- ・あつこお姉さんのイベントにする
- ・動画で配信
- ・自衛隊を呼んでセミナー
- ・無人島生活体験

- ・食べられる野草を知る→食べ方の料理方法
- ・火の起こし方
- ・学校でのお泊り会
- ・キャンプ用品を使って災害時の食事を作る
- ・大人の避難訓練

F グループで出た意見（付箋）

- ・家で防災食を作り、報告して参加賞をあげる
- ・防災トイレットペーパーを景品（ようかん）
- ・防災食のレシピコンセプト（キッチンカーコンテスト
みたいな）／市長賞
- ・子供向け（保護者付き）のイベント
- ・避難所のイベント（親子連れ）
- ・飲食店に防災食コンテストやってもらう
- ・その横で知識つけや体験コーナー
- ・高齢者の避難訓練（地域全体）
- ・地域ごとに訓練（現在ないところ）
- ・備蓄品を使った炊き出し

資料 2. 参加者アンケート

参加者全員にアンケートへの回答をお願いし、以下のような結果を得た。

設問 1. 参加動機についてお聞かせください（複数回答可）

テーマに関心があったから	16	(32.7%)
新しい市民参加型だから	8	(16.3%)
無作為抽出で選ばれたから	21	(42.9%)
その他の理由	4	(8.2%)

自由記述

- ・興味や好奇心・良い取り組みと思った
- ・トランポリンの施設を作りたい
- ・防災の手伝いに興味を持った
- ・自分の意見を反映させる良い機会と思った
- ・予定がなく謝礼があったから

設問 2. この討議会は、市民の声を行政に伝える手法として適していると思いますか？

適している	30	(93.8%)
分からない	2	(6.3%)
適していない	0	(0.0%)
その他・無回答	0	(0.0%)

設問 3. これまでに地区懇談会など、市が主催する討論の集まりに参加したことがありますか？

ある	2	(6.5%)
ない	29	(93.5%)

設問 4. 市民討議会に限らず多治見市の市民参加の企画に今後も参加したいと思いますか？

参加したい	4	(12.5%)
都合が合えば参加したい	28	(87.5%)
参加したくない	0	(0.0%)

自由記述

- ・多くの人と交流ができ、新しい考えを学べた
- ・スタッフのスケジュール管理

設問 5. より具体的な感想（意識の変化）をお聞かせください（複数回答可）

参画意識がより持てた	13	(24.1%)
積極的に行動すべき	28	(51.9%)
行政に関心が持てた	12	(22.2%)
特に変化はない	1	(1.9%)

自由記述

- ・行政に丸投げするのではなく、自ら行動すべきと思った

- ・行政だけに頼ってはいけないと思った
- ・自分の意見を表明する場がないと感じた
- ・普段、発表する機会がないため、考えを深める
- ・良い機会になった
- ・防災、避難所に関する意識が変わった
- ・多くの諮問に機会を与えて欲しい
- ・中・高校では学ぶ機会はあるが、大人には少ない
- ・市民皆で学び、体験する機会を作っていきたい
- ・いろんなことを学べて有意義な時間であった
- ・参加者同士話すことで新たな気づきを得られた
- ・意見を積極的に出すべき
- ・予想した範囲であった、若者の意見は面白い
- ・市民の声を直接行政に届ける活動は重要
- ・場所の大切さを知った
- ・世代間会話で知識が変化した
- ・色んな人と話して考え方も知って楽しかった
- ・災害対応は行政だけではないと思った
- ・多治見を想う方と連携感を感じた
- ・行政に対して意見を伝える機会が少なく参加した
- ・意見が反映されれば嬉しい
- ・発災時待つだけではダメ、自分から動くという話が刺さった
- ・積極的に行動すべきと思った
- ・市の防災活動の実態を知り、自分も意識向上に繋がった
- ・自分の意見が反映されるなら参加したい

設問 6. 今回市民討議会の謝礼についてどのように感じますか？

あった方が良い	24	(75.0%)
ない方が良い	2	(6.3%)
その他	6	(18.8%)

自由記述

- ・あったほうが参加者は燃える

設問 7. 今後、市民討議会の討議テーマにした方が良いと思うテーマや、日頃関心のあるまちづくりに関する事項がありましたらお聞かせください。

自由記述

- ・交通事情、インフラ
- ・商業施設について、教育現場について、介護の在り方
- ・子供を育て易いまちにするには
- ・若者が返ってきたいと思うまち
- ・独居者を皆で支えるまち

- ・子育てしやすいまち
- ・乳幼児家族が安心して避難できるまち
- ・子供のために必要なこと
- ・良い環境に配慮した生活の仕方について
- ・害のないまち、多治見を目指して
- ・ごみの削減
- ・予算の使い方改善策
- ・産業と発展
- ・室内で遊べる施設の有効活用（セラパ・産文）
- ・人口減対策

設問 8. 討議会のスタッフとして参加してみたいと思いますか？

参加したい	9 (19.4%)
参加したくない	4 (12.9%)
分からない	21 (67.7%)

自由記述

- ・時間が合えば
- ・参加したいが大学が忙しい
- ・参加したいが時間がない

設問 9. その他感想等

- ・楽しかった
- ・参加して良かった・市として開催して頂いて有難い
- ・討議会の時間が長い
- ・今後も開催してほしい
- ・公式 LINE やイベントの認知度が低い
- ・有意義な機会をありがとう
- ・選ばれたということで参加意欲が湧きよかった
- ・初めて会う人との交流は面白かった
- ・世代間の交流が出来て良かった
- ・多治見についてもっと知りたいと思った
- ・防災について知識が増した
- ・防災意識はあっても実際に被災したら何も出来ないと思う
- ・今回参加して受け身でなく、自ら動いて役立てたい
- ・F グループから発表で考える時間がなかった
- ・話し合いで新しい気づきがあり有意義であった
- ・貴重な時間をありがとうございました
- ・接することの無い人たちと交流できて楽しかった
- ・思ったよりも楽しかった
- ・話し合いで勉強になった

- ・有難うございました
- ・弁当のメニューは事前に知らせてほしい
- ・災害時に毛布などの寄付を募ったらよい
- ・ペット同伴の避難所が欲しいと言ったときスタッフに笑われた
- ・スタッフに関しては頼まれたらOK